

Topics

- 1 群馬大学基金「駆ける、世界を！グローバルチャレンジプログラム」始まる
- 2 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムの広がり
- 3 JASSO海外留学支援制度の申請を行いました
- 4 第4回先端工学とその教育に関する国際会議 2019 参加報告
- 5 陳先生が着任されました
- 6 昭和地区の外国人留学生・研究者の支援がスタート！
- 7 荒牧地区留学サポート室での相談がスタート！
- 8 国際センター教員 著作紹介

群馬大学基金「駆ける、世界を！グローバルチャレンジプログラム」始まる

群馬大学基金による「駆ける、世界を！グローバルチャレンジプログラム」が2019年度からスタートしました。このプログラムは、群馬大学の国際交流リーダーの育成を図ることを目的とし、学生個人または学生グループが自ら企画した、独創性のある、海外での国際交流に成果が期待される研修や研究に対して支援を行うものです。

また、活動支援費用はトビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム大学生等コースに準じて支給され、地域指定月額12万円～16万円×月数と、通常の奨学金と比較して手厚い支援となっていることにも特徴があります。

支援対象プログラムは、書面による一次審査とプレゼンテーションによる二次審査によって決定されます。第1回のグローバルチャレンジプログラムでは、国際センター学生国際交流作業部会部会員が行う書面による一次審査、国際センター長・理事によって構成される審査委員会による二次審査を経て、2019年7月に3件のプログラムが採択されました。採択されたプログラムは、「先進国の保健医療を発展途上国に還元するための基礎づくり～発展途上国の子ども達が全力でスポーツに取り組める環境づくりへ向けて～」（千葉空樹さん、医学部保健学科2年）、「インドネシアにおけるコミュニティヘルスと医療の地域格差」（手代木秀太さん、医学部医学科4年）、「遺伝子工学の大会 iMEG 参加および遺伝リテラシーの普及活動を行う」（北みずきさん他、理工学部3年）でした。

2019年度はプログラム実施の初年度ということもあり、4月から募集を開始し7月に二次審査を実施して対象プログラムを選考する形となりましたが、第2回（2020年度に実施されるプログラム）についても11月末に応募を締め切り、1月10日に二次審査を行い支援対象プログラムを決定することになっています。

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムが、次回第13期で終了することもあり、今後、群馬大学の国際化を進める大きな柱となることが期待されています。



第1回グローバルチャレンジプログラム
二次審査を終えた審査員の方々と応募者のみなさん

2019年7月16日

大学会館アトリウムラウンジにて

国際センター准教授 学生国際交流作業部会長 牧原功

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムの 広がり



(写真上)佐野さん:理工学府・博士課程 2 年、ニュージーランドにて研究に励んでいます。

(写真下)丸山さん:理工学部 4 年、来年 3 月末にオーストラリア渡航予定です。

トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムは、産業界を中心に社会で求められる人材、世界で活躍できる人材の育成を主たる目的に掲げ、文部科学省初の官民協働プロジェクトとして 2013 年にスタートしました。現在、選考中である募集は 12 期を数えます。

手厚い事前・事後研修、充実した奨学金という魅力に加え、幅広い留学プランが可能である本プログラムは、群馬大学でも期を重ねるごとに人気が高まっています。応募過程では、各学部の担当教員、国際センターおよび国際課の教職員による手厚いバックアップ体制も整い、喜ばしいことに、採択の実績も大きな伸びを見せています。前回の 11 期では、10 名の応募があり 3 名が採択されました。

本プログラムは、13 期をもって終了の予定ですが、多様な海外留学の機会を提供しようという基本姿勢は、本学オリジナルの、群馬大学版トビタテ！留学「グローバルチャレンジ」の創設にも影響を与えました。残る 13 期のラストチャンスに加え、本学の「グローバルチャレンジ」2 期を大いに活用し、益々多くの学生さんに世界へトビタッテほしいと願っています。

国際センター講師 派遣チームリーダー 船橋瑞貴

JASSO 海外留学支援制度の申請を行いました

2020 年度の JASSO 海外留学支援制度の募集が行われ、申請締切日の 10 月 17 日に、学内選考を経たプログラムの申請がなされました。JASSO の海外留学支援制度の学内選考は、2 年前までは学部等の国際交流委員会が順位付けしたリストをもとに、国際センターの国際交流委員会で行っていましたが、海外留学支援制度の奨学金を獲得することは群馬大学の国際化にとって非常に重要な戦略であるとの理由から、昨年度の申請以降、すべての申請書を国際課で一括して受け付け、国際センター学生国際交流作業部会でピアレビューを行って学内での順位付けを行い、最終的な申請プログラムを選考するという方式に改めました。また、それに伴い、本支援制度に造詣の深い秋保国際課長に、申請者を対象とした申請書の書き方についての FD の実施を依頼し、さらに今年度からは審査にあたる作業部会員のための FD も開始するなど、質の高い申請書の作成と、その厳正な審査を行う体制を整えてきています。

幸い、ここ数年間の採択率は、昨年度申請分において大幅な伸びを示しており、大学から申請するプログラムの審査体制の一新や、FD の実施が効果を発揮していることが見て取れます。その一方、派遣プログラムの採択率は高いものの、双方向や受入のプログラムでの採択は依然として厳しい状態が続いており、この点への対応が今後の課題であると思われます。

JASSO 海外留学支援制度採択状況

双方向			派遣			受入			合計		
申請件数	採択件数	採択率	申請件数	採択件数	採択率	申請件数	採択件数	採択率	申請件数	採択件数	採択率
1	0	0%	17	10	59%	9	0	0%	27	10	37%
1	1	100%	8	1	13%	1	0	0%	10	2	20%
1	1	100%	7	2	29%	3	0	0%	10	3	30%
2	0	0%	6	5	83%	2	0	0%	10	5	50%

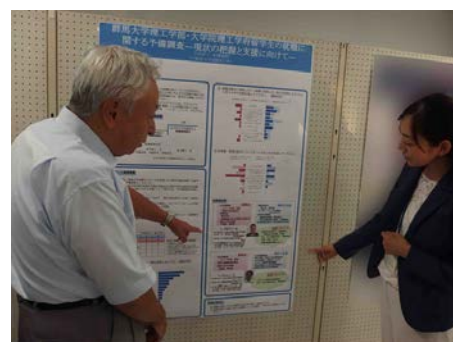
国際センター准教授 学生国際交流作業部会長 牧原功

第4回先端工学とその教育に関する国際会議 2019 参加報告

2019年9月26日～28日、太田キャンパスにて、第4回先端工学とその教育に関する国際会議2019(4th ICAEE2019)が開催されました(群馬大学理工学府主催、群馬大学工業会、地域産学官連携ものづくり研究機構、北関東産官学研究会共催)。群馬大学工業会中国支部総会も開催され、中国、日本から52名の参加がありました。

国際会議のテーマは、理工学のみならず、英語および日本語教育、認証、様々なFD(改善)活動、産官学連携などにわたり、群馬大学および地域の国際化を目的として開催されました。12件の口頭発表と14件のポスター発表が行われ、国際センターは、「群馬大学理工学部・大学院理工学府留学生の就職に関する予備調査一現状の把握と支援に向けて一」(発表者:大和啓子・船橋瑞貴)というタイトルでポスター発表のセッションに参加しました。関理工学府長、ICAEE実行委員長志賀教授をはじめ、参加者に対し、桐生キャンパスの学生の日本語の学習と就職の状況について、アンケート調査の結果と就職内定者のインタビューをもとに説明し、課題について議論しました。

国際センター 講師 大和啓子



理工学部・理工学府留学生の就職状況と日本語・英語能力について ICAEE 実行委員長志賀教授と意見交換の様子

陳先生が着任されました

2019年10月1日に群馬大学国際センターに着任しました陳雲蓮と申します。元々の出身は中国の浙江省ですが、大学卒業後、日本と英国を拠点に近代東アジアの都市史と建築史の研究に従事してきました。現地調査や建築の旅を通して、わたしは各国の人々が蓄積してきた建築文化、都市文化と生活文化の豊かさに魅せられました。さらに違う言語で人々とコミュニケーションすることの重要性も実感しました。

2016年3月に英国での在外研究(2012-2016)を終え、岡山大学グローバル人材育成院(2016-2019)に奉職し、日本建築史と東アジア都市史の専門科目を担当するほか、日本人学生の留学指導や外国人留学生の研究指導と生活サポートに携わってきました。国際教育の現場で英語、中国語および日本語で東洋の文化を、日本を含め各国の学生に正確にかつわかりやすく説明することを目標に、学生や同僚と切磋琢磨しながら努力してきました。

これまでの経験を生かし、群馬大学では主に国際日本事情(群馬県の文化遺産、日本の都市史、建築史)などの英語による教養教育科目、留学生支援、留学生と日本人学生との交流事業(チャイニーズカフェ)を担当します。このような仕事を通じ、学生に専門分野の勉強や研究のほかに、異文化を受容する態度や違う文化的背景を持つ人とコミュニケーションする国際的感性を養うことの重要性に気付いてもらい、そしてそのための外国語やコミュニケーション能力を習得する技術を伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

国際センター 講師 陳雲蓮



巖島神社にて

お知らせ

昭和地区の外国人留学生・研究者の支援がスタート！

国際センター教員及び国際課職員の昭和地区常駐日ができました！

2019年10月から国際センター教員の陳雲蓮先生が週一日昭和地区に常駐します。留学生や外国人研究者を対象に、日本や大学での生活、研究室や研究活動、就職などいろいろな悩みに対応します。日本語・英語・中国語で相談できます。気軽に訪ねてください。

■毎週火曜日、9：00～17：00、国際交流室（共用棟7階）

なお、水曜日は留学生対象の日本語クラスの時間に前後して、国際センター教員の牧原先生が国際交流室に駐在します。留学生の日本語学習等の相談があれば、いつでもお越しください。

■毎週水曜日、14：00～17：00、国際交流室（共用棟7階）

また、国際課職員も、2019年10月から昭和地区常駐日ができています。留学や奨学金の相談、情報提供などを行っています。こちらも、気軽に来室してください。

■毎週火曜日・金曜日、9：00～17：00、国際保健推進室（共用棟7階）

荒牧地区留学サポート室での相談がスタート！

大学会館2階の留学サポート室には、学期中の昼休みに毎日国際センター教員が在室しています。留学や国際交流に関心のある学生の皆さん、群馬大学に留学中の皆さん、どうぞ気軽に訪ねてください。昼食を食べながらの相談も可能です。予約は不要です。

今後は留学関係の資料も揃えていく予定です。



国際センター留学サポート室
STUDENT MOBILITY OFFICE

2019年10月より
国際センター教員が昼休みに在室します。(予約不要)
11:50~12:40

From October 2019,
GUIC teachers will
answer your questions
during lunchtime
ランチを持って気軽に相談に来てください！
JOIN US WITH YOUR LUNCH!

担当教員/Teachers
MON TUES WED THURS FRI
野田 聡 橋本 隆 牧原 麗華
Noda・Funahashi・Chen・Makihara・Ochi

国際センター教授 副センター長 野田岳人

国際センター教員 著作紹介

『日本語配慮表現の原理と諸相』 2019年11月 くろしお出版

山岡政紀、牧原功、金玉任、大和啓子、塩田雄大、斉藤幸一、小野正樹、三宅和子、西田光一、李奇楠、Lina Abdelhameed ALI、岩崎透、UMAROVA Munojot 著

日本語には「つまらないものですが」のような、対人配慮に基づく慣習的な表現が多く存在します。直感的に漠然と把握されてきた配慮表現を本書ではその定義を明確にし、その特徴を記述し、分類・整理して示すことを目指して編纂されました。従来の配慮表現研究の流れについてもわかりやすく整理されており、日本語配慮表現研究の手引書となる一冊だと思えます。なお、本書は大和の他、国際センターの牧原先生も執筆されています。

国際センター 講師 大和啓子



『新版 日本語語用論入門:コミュニケーション理論から見た日本語』 2018年8月 明治書院

山岡政紀、牧原功、小野正樹、著



本書は、主に大学院レベルの学生を対象として、日本語を例にしつつ、語用論の様々な理論を検証し、言語によるコミュニケーションの仕組みを考えることを目的としています。日本語を例にした語用論の入門書は少なかったため、本書はそのわかりやすさが評価され、東北大学、筑波大学、名古屋大学など多くの大学院で教科書として採用されています。コミュニケーション理論に興味のある方に手にとっていただきたい一冊です。

国際センター 准教授 牧原功